

生活新聞

260 博報堂生活総合研究所
SEP.9.1997

子供の生活

少子化時代のアメンボ・キッズ



人口ピラミッド
平成8年10月1日現在
推計人口/総務庁統計局

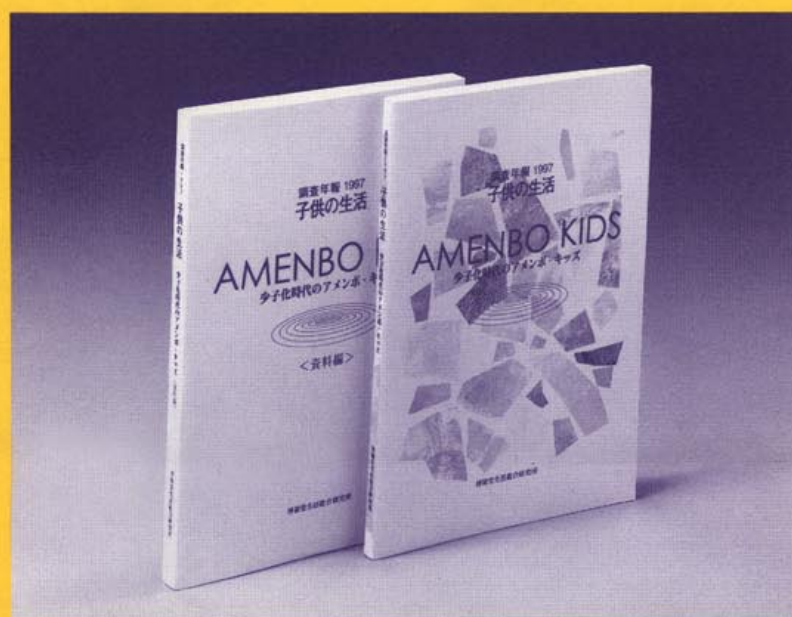
男性

女性

1200 1000 800 600 400 200 年齢 200 400 600 800 1000 1200
(単位・千人)

子供の生活、徹底研究。 調査年報 1997 近日発刊。

9月10日、97年版の調査年報が発刊になります。今年のテーマは「子供」。10歳から14歳の小さな生活者1500人の暮らしを徹底調査・分析しました。本号ではその要点をご紹介します。



少子化社会の到来がいわれて久しくたちます。人口ピラミッドをみても明らかなように、今回の調査対象者である10歳から14歳の子供たちが生まれた頃が、少子化の始まりです。この傾向は、未婚率の上昇、晩婚化なども関係していますが、彼らの親にあたる世代（本調査対象者たちの父親の平均年齢44歳、母親の平均年齢41歳）の人数が少ないことも影響しています。

14歳以下の「年少人口」と65歳以上の「老年人口」の比率の推移をみると、この20年間の日本の人口構造の変化には目をみはるものがあります。70年代、80年代は、年少人口が老年人口の2倍から3倍と圧倒的に多かった時代です。ところが、少子化により年少人口が年々減少し、1997年6月には、年少人口15.46%に対し老年人口15.50%と、ついにその割合は逆転してしまいました。

また、10歳から14歳の人口推移をみると、第2次ベビーブーム世代がその中心であった1985年をピークに

調査概要

- 調査地域：首都圏40km
- 調査対象：1997年3月31日現在で小学4年生から中学2年生に在学する男女（所属学年を優先し、年齢には限定を加えなかった）
- サンプル数：1500人
- サンプル構成：

	男女計	男子	女子
小学4年生	300	150	150
小学5年生	300	150	150
小学6年生	300	150	150
中学1年生	300	150	150
中学2年生	300	150	150

- サンプリング法：該当エリアの町丁目別世帯累積表より150地点を等間隔に抽出し、該当地点におけるエリアサンプリング。
- 調査方法：訪問留置自記入法
(基本属性に関しては面接にて行った)
- 調査実施期間：1997年3月7日～3月31日

徐々に減少しています。1996年の10～14歳の人口は約734万人、ピーク時に比べると270万人もの減少です。仮に、この人数をキッズ・マーケットという市場規模として捉えてみると、1985年に比べ、27%の市場縮小といえます。つまり、10年間で子供市場の規模は自然に4分の3まで減ってしまったという見方もできるわけです。

子供の減少は、経済・産業面にも大きなインパクトをもたらします。そして、少子化は、いまの子供たちが十代という時期を通り過ぎればすむという一過性の問題ではありません。むしろ、彼らが消費の主役に躍り出る21世紀にかけては、もっと大きな企業課題となって迫ってくるのです。

来るべき彼らの消費市場にどう対応すべきか？ 今、この世代の生活実態と意識をみることで、その価値観を把握しておくことが重要です。21世紀の消費社会を考える基礎資料として、調査年報1997をご活用下さい。

◆平成の子供たち基礎知識

子供たちに投げかけた質問項目は多岐に渡ります。「衣食住」の実態、学校や塾における「学び」の様相、遊びなど「余暇」の状況と願望、友達や家族との「人間関係」、メディア接触や情報源への興味といった「情報」行動、そして「消費」生活の実態と欲求……生活領域別に子供たちの細かな意識と行動を探りました。

そんな中から1500人の子供たちの暮らしぶりを理解するポイント・データを以下に並べてみました。日々どんな行動・体験をしているのか。豊かな時代を生きる子供たちのサイフの大きさはどのくらいか、そして、どの程度モノ持ちなのか。それぞれの数字は、調査結果が示した「平成の子供たちの実態を知る基礎数値」です。

生活環境

- AM7:01 起床、PM10:38 就寝
- 朝ご飯をひとりで食べる子供は24%
- 母親が専業主婦の子供は42%
- 自分の部屋がある子供は84%、ひとり部屋も43%
- ひとりっ子は8%

日常行動

- 塾に通っている子供は44%、帰宅時間はPM8:09
- 習い事（ピアノ、書道、英会話など）をしている子供は56%
- ボランティア活動をしたことがある子供は44%
- 「いじめ」を受けた子供は26%、「いじめ」をした子供は16%
- 学校の先生になぐられたことのある子供は19%

経済状況

- 1か月の平均こづかい額は1,930円
- こづかいが足りないと感じる子供は49%
- お年玉の平均額は29,900円
- 貯金をしている子供は77%
- 貯蓄額の平均は108,300円

保有財

- テレビゲームを持っている子供は90%、ゲームソフトの保有本数は22本
- 自分専用のヘッドホン・ステレオを持っている子供は37%
- 自分専用のラジカセを持っている子供は47%、CDの保有枚数は12枚
- 自分専用のカメラを持っている子供は26%
- 自分専用の自転車を持っている子供は83%

◆ 子供の5大特徴

調査結果の詳細な分析をもとに、いまの子供たちの特徴を抽出してみました。参考として、1989年に実施した「89年子供調査（10～14歳対象）」の結果との時系列比較を行っています。また、1996年に実施した「生活定点調査（20～69歳対象）」データとの比較も行い、大人の意識との差を分析しました。結果、浮かび上がった子供の特徴は、「分別度が高い」「許容度が高い」「融合度が高い」「即応度が高い」「早熟度が高い」の5点でした。

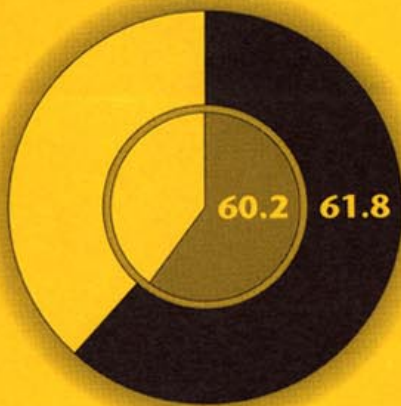
特徴1

分別

自分の現在置かれた状況をきちんと認識した上で、世の中に対する考え方は、良識的かつクールで現実的である。ちょっと距離を置いて、世の中や自分の立場を冷静に分析する姿は、小、中学生とは思えない分別度の高さを感じさせる。

良識的

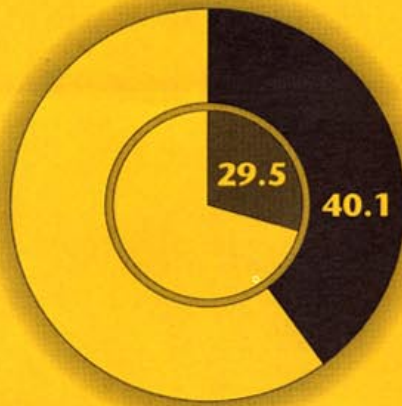
日本の利益より世界への貢献が大事



(外円：97年子供 内円：96年生活定点)

現実的

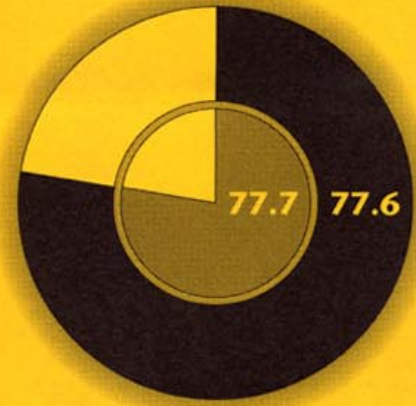
これからの世の中は悪くなると思う



(外円：97年子供 内円：89年子供)

自己認識

幸せな方だと思う



(外円：97年子供 内円：96年生活定点)

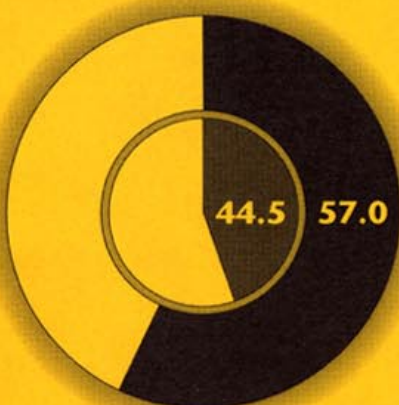
特徴2

許容

他人と違っていても気にならず、「人は人」と他者の価値観を認める。この許容度の高さから、人と意見が違っていても逆らわないという子供は半数を超え、主流の考え方となっている。また、勉強だけを本分とは思わず、幅広く様々な尺度を容認する。

平気

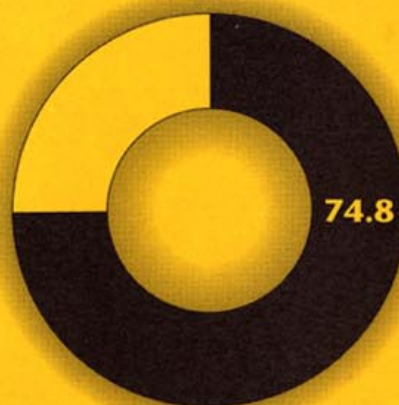
他の人と違っていても気にならない



(外円：97年子供 内円：89年子供)

人は人

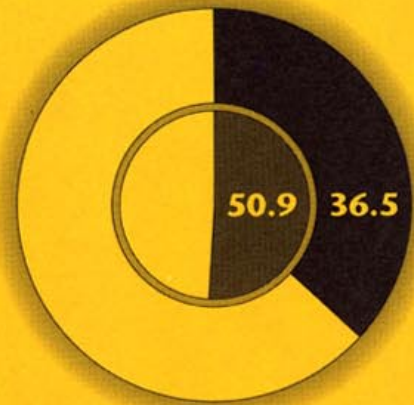
塾に通っていない友達をみて「何とも思わない」



(外円：97年子供・塾に通っている人ベース)

多尺度

遊びより勉強が大事



(外円：97年子供 内円：89年子供)

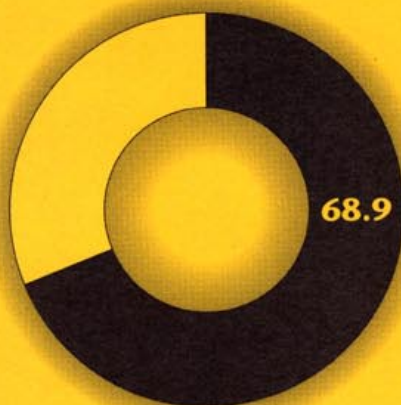
特徴3

融合

今の子供たちは、家にこもりがちで、友達とうまく遊べないといわれるが、調査結果にはそうした傾向はみられない。年上の人とでも、外国の人とでもうまく付き合い、そのハードルは低く、誰ともうまく解け合う。特に女子では、プレゼント、プリクラ、手紙とネットワークづくりも盛んである。

低ハードル

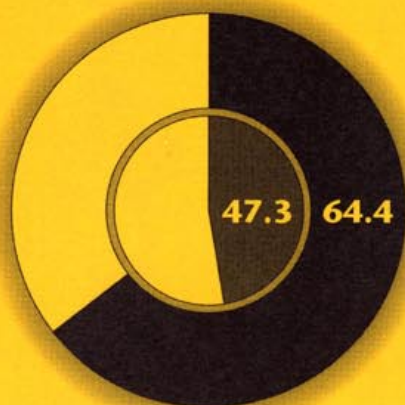
自分は誰とも友達になれる



(外円：97年子供)

グローバル

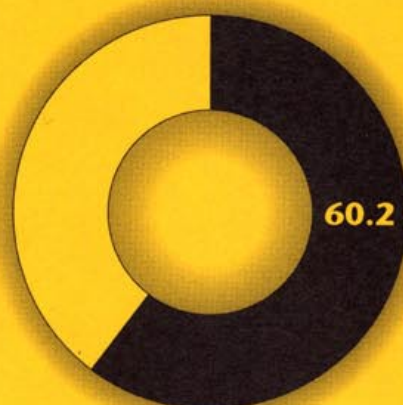
外国人と友達になりたい



(外円：97年子供 内円：89年子供)

ネットワーク

今の学年になって友達の誕生日にプレゼントを贈った



(外円：97年子供)

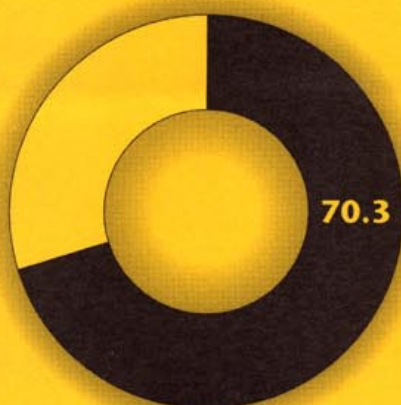
特徴4

即応

高いアンテナを張りながら、世の中の変化を敏感に察知し、デジタル化、バーチャル化などの新しい波にも機敏に対応する。「たまごっち」などの携帯用ミニゲームが趣味という子供も4割を超え、テレビゲームは友達みたいなものだと思う子供も3割を超えている。

デジタル慣れ

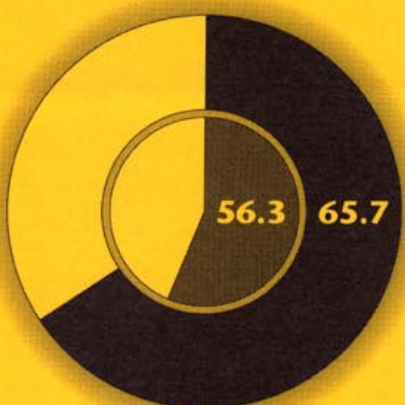
パソコンを使ったことがある



(外円：97年子供)

俊敏アンテナ

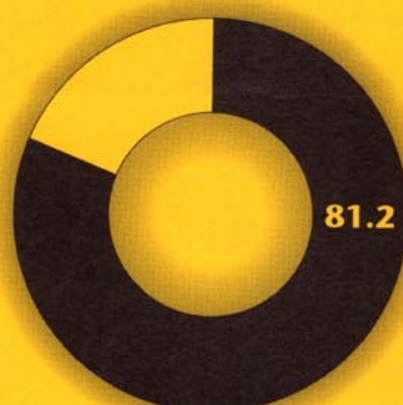
流行に関心がある



(外円：97年子供 内円：89年子供)

バーチャル好み

テレビゲームが好き



(外円：97年子供)

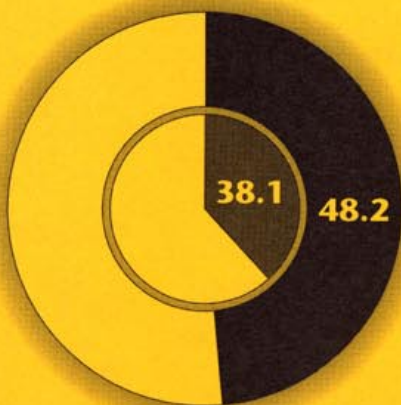
特徴5

早熟

子供っぽいものを嫌い、一人前の大人への志向が強い。当然、異性や自分の容姿への関心も高く、“ミニ大人化”している。全体的にみれば、確かに早熟ではあるが、何か無理をしたり、背伸びをしている感じはしない。自然に世の中の流れに適応していたら、結果として早く大人になってしまったという感じである。

いっぱし

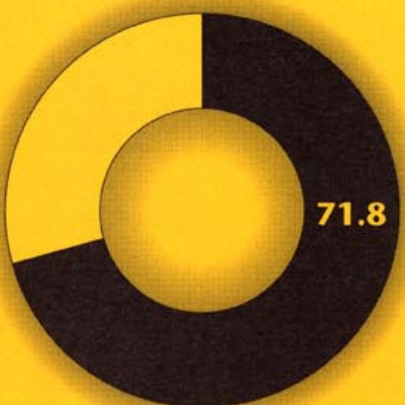
早く大人になりたい



(外円：97年子供 内円：89年子供)

おさな嫌い

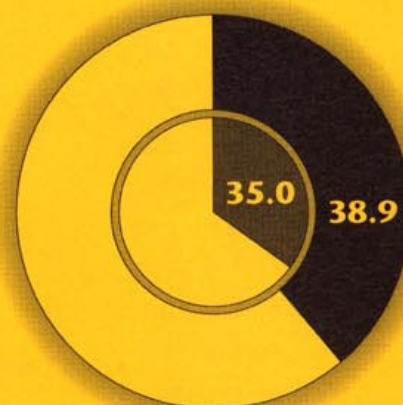
子供が出てくる広告が好きだ：いいえ



(外円：97年子供)

色づく

異性にもてたいと思う



(外円：97年子供 内円：89年子供)

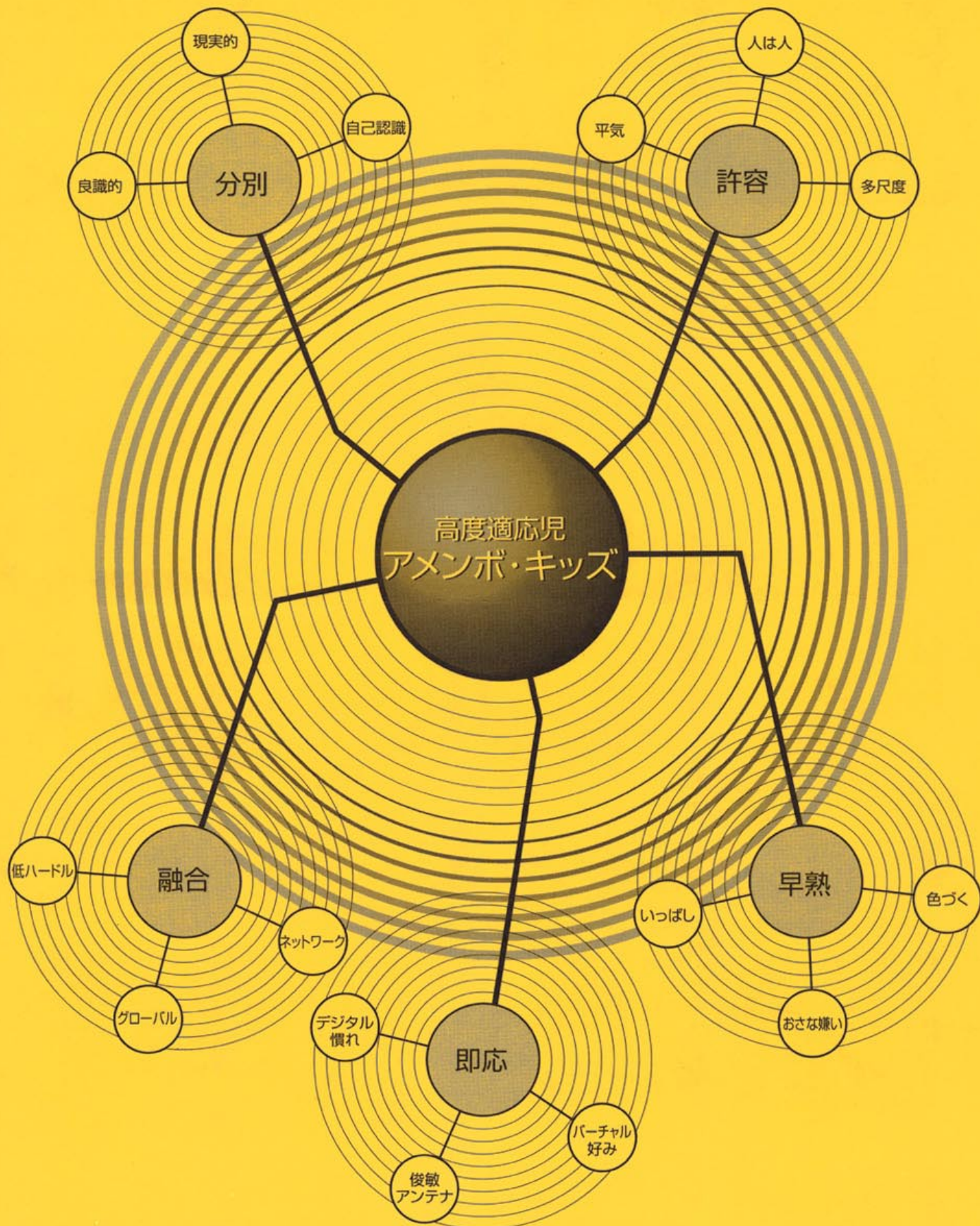


5大特徴をみると、今の子供たちは、自分の立場を理解し、「分別」をもって物事を考え、“人は人”と多様な価値観を「許容」する気持ちが強い。その姿勢は、他者や地域に対する壁を意識せず、うまく「融合」しながら、新しい変化にも柔軟に「即応」しているように見える。また、幼さを嫌悪し、いっばしを気取り、行動は大人的で「早熟」。

豊かで、高度情報化された社会の中で、彼らは、世の中の常識や自分の役割、他者との関係や社会システムの変化というものに俊敏に適応しながら生活している感が強い。あっちにスイスイ、こっちにスイスイと機敏に適応する姿は、水面を表面張力によって浮かび、進む「アメンボ」の姿を想像させる。

調査結果が浮き彫りにした子供像、それは「アメンボ・キッズ」。少子化時代をスイスイ生きる高度適応児だ。

高度情報化社会

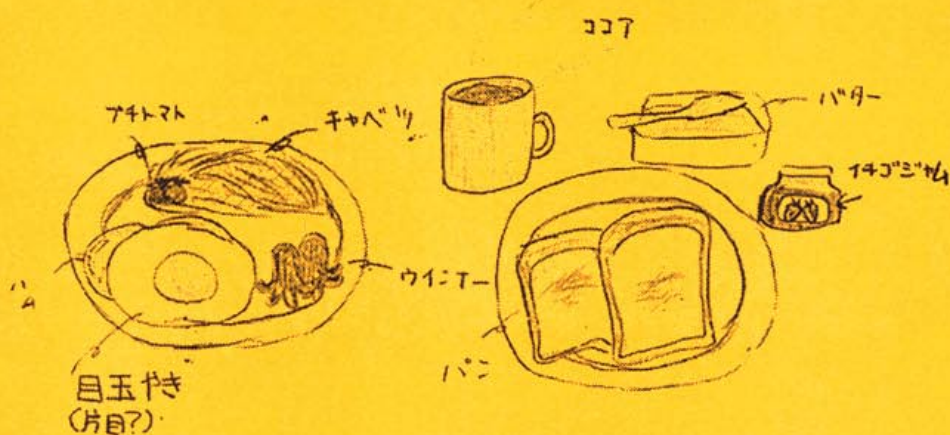


成熟社会・少子化社会

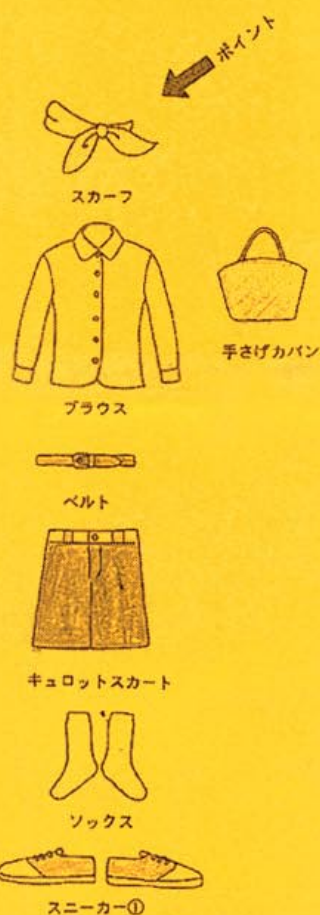
◆ 実験結果：子供の視線と生の声

今回の調査年報の特徴は、本調査の分析に加え付帯調査としての「実験」が充実していること。報告書には55頁に渡り13の実験結果を掲載してあります。本調査の対象となる小学4年生から中学2年生を会場に集め、多彩な実験手法を用いて、子供たちの本音と欲求を探っています。

- スタイル再現法 ● 食卓の描画投影法 ● リフォーム描画投影法 ● 理想的学校のシーン・イメージ法 ● 遊び場のメンタルマップ法 ● ゲーム・メイキング法 ● サイレント・コミュニケーション法 ● 生活遠近法 ● ホールケーキ法 ● 情報ファイリング法 ● 強制連想法 ● 購買プロトコール法 ● バーチャル・ショッピング法



「理想の朝食」小学6年・女子～食卓の描画投影法より



「親と一緒にレストランやパーティに出かける時の服装」小学5年・女子～スタイル再現法より

- スポーツジム
- サウナ ◦ 温泉
- エスカレーター
- ライブハウス
- クーラー
- 自動はんぱいき
- コンビニ
- 電話ボックス
- 動物園 ◦ とこ屋
- ゲームセンター

「理想の学校設備」中学1年・男子～理想的学校のシーン・イメージ法より

報告書は本編204頁・資料編298頁。部門部署に配布されます。